



袋井市議会議員

立石やすひろの 議会レポート

Vol.2

令和4年5月発行

令和4年度の予算案が可決される。



写真は浅羽中学校の新校舎と北校舎の中庭「学びの森」。(P4)

新年度を迎え、気持ちを新たに

野山に草木の新緑が映える季節となりました。

さて、新型コロナウイルス感染の第6派は、地域によっては再拡大に転じています。

引き続き、感染予防に心掛けた生活が必要な今日の状況です。

2月定例会では、令和4年度の予算案が可決されました。(P3)

新年度のコロナ関連事業は、ワクチン接種をはじめとした各種感染症対策45事業に6億540万円が予算化されました。

本議会レポート5月号は、2月定例会の議会報告に加えこれまでの一年間の活動の中で、所属する会派として行った、行政に対する提言や要望を掲載しました。(P5～8)

皆様のご意見をいただく中、住みよいまちづくりに取り組んで参ります。



【令和4年度の予算案が可決される】

2月定例会 議会報告……………2
2月定例会 新年度予算の概要……………3
トピックス①
浅羽中学校の新校舎が落成……………4
行政に対する提言と要望①
新年度の予算編成への提言……………5～7

行政に対する提言と要望②
令和3年度の議会質問一覧……………8
2月定例会 「一般質問①②③」……………9～11
トピックス②
袋井高校の生徒と市議が交流……………12

contents

2月議会定例会開催される

2月21日～3月22日まで

■開会概要

◇2月21日に開会し、令和4年度一般会計予算、令和3年度一般会計補正予算(コロナワクチン接種事業など)、条例の一部改正(袋井市国民健康保険税条例など)をはじめ、31議案が市長より提案されました。

◇審議の結果、可決承認され、3月22日に30日間の会期を閉じました。

■提出された主な議案

- 令和4年度袋井市一般会計予算 [第7号](コロナワクチン接種等)
- 令和4年度袋井市介護保険特別会計予算[第10号](保険給付費等)
- 令和4年度袋井市水道事業企業会計予算[第13号](給水費等)
- 令和3年度袋井市一般会計補正予算 [第1号](コロナワクチン接種)
- 袋井市国民健康保険税条例の一部改正 [第25号](賦課方式、税率等)

他26議案

■市長の令和4年度施政方針より(抜粋)

①新型コロナウイルス感染症対策

3回目ワクチン接種は、2月からはエコパで掛川市と合同で開始した。引き続き、希望する市民が一日でも早く接種できるよう努める。

②脱炭素の推進

2050年までに、二酸化炭素の実質排出ゼロを目指し、公共施設への再生可能エネルギーの導入や、各家庭への新エネルギー導入支援を進める。

③防潮堤の整備

湊地区と中新田地区の市施工分を令和5年度までに整備し、県施工分を含めた全区間の令和7年度完成に向け進める。

④市民のデジタル化

マイナンバーカードの普及促進と行政手続きの電子申請化を進め、デジタル技術の活用による行政サービスの利便性向上を目指す。

⑤可燃ごみの削減

2030年度までに、家庭から排出される可燃ごみの30%削減を目標とする。まずは、2024年度までの3年間で15%削減を目指す。



中遠クリーンセンター



令和4年度 袋井市当初予算の概要

■予算の規模、増減の要因

- ◇一般会計の総額は365.8億円で、前年度比2.8%の増(4年連続増、過去最大の予算)。
 - ◇防潮堤整備事業などにより消防費が17.6%の増、DX推進事業などにより総務費が16.9%の増。一方、産業立地事業費補助金の減により商工費が26.3%の減となる。
 - ◇特別会計・企業会計を含めた総額は600.61億円で、前年度比2.1%の増。
- *詳細は4月配布の「広報ふくろい」、5月配布の「ふくろい市議会だより」をご覧ください。

会計別予算額

(単位：億円・%)

区分	令和4年度当初予算	前年度比伸び率
一般会計	365.80	2.8
特別会計	143.68	▲1.1
企業会計	91.13	4.6
合計	600.61	2.1

※特別会計 (介護保険など5会計)
企業会計 (水道・下水道・病院)

主要事業

地域産業の振興 2億8,800万円

- 企業誘致と産業用地開発の推進
- 中小企業デジタル化実態調査と支援



小笠山工業団地の開発

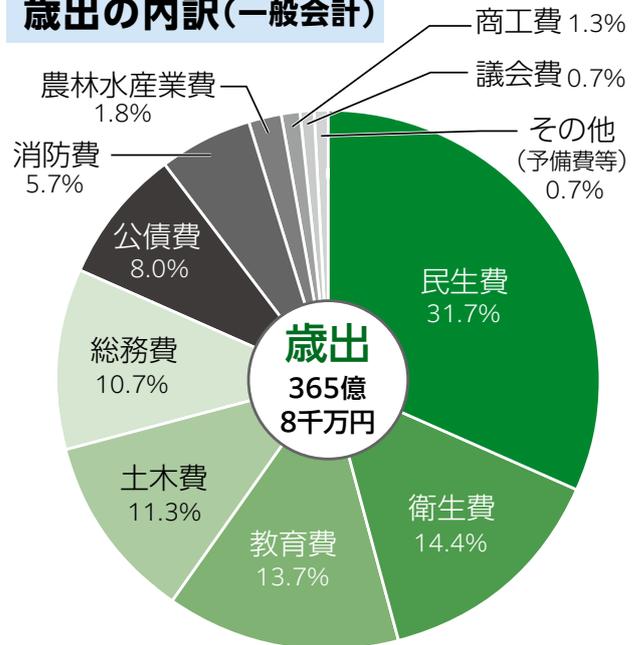
海の賑わい創出 2,250万円

- 同笠海岸の賑わい創出の環境整備
- 防潮堤利用に向けたイベント開催



浅羽海岸の防潮堤

歳出の内訳(一般会計)



脱炭素社会の推進 3,800万円

- 公共施設への太陽光発電施設の設置
- ごみの分別による可燃ごみの削減



太陽光発電施設(イメージ写真)

新型コロナ対策 6億540万円

- ワクチン接種事業の速やかな実施
- 公共施設の
手洗い場の
自動水洗化他



ワクチン接種(イメージ写真)

浅羽中学校 新校舎の落成式が行われる。

- ◇老朽化に伴い、令和2年度から工事を進めてきた浅羽中学校の新校舎が完成し、3月24日、落成式が行われました。
- ◇南校舎と北校舎の間に、新校舎と武道場が新築となり、北校舎は改修となりました。これにより、従来の南校舎と武道場は年内に撤去されます。

多様な森と共生する思い出の学び舎がコンセプト



中庭

- 式典には市長、市議会議員、学区の連合自治会長など約40名が出席し完成を祝いました。



落成式

- 新校舎と北校舎の間には「創作の森」「学びの森」と名付けられたウッドデッキが新設されました。

- 新校舎は幅広（8m）の中廊下に4箇所の吹き抜けを配置することで、教室に採光と通風を確保しています。



新校舎の中廊下



鳥観図(令和4年末)

- 従来の南校舎の跡地は「交流の森」、武道場の跡地は駐車場として整備されます。

令和4年度の予算編成への提言・要望

■活動の概要

◇所属する市民クラブ会派として、令和4年度の予算編成に関し、26項目について、市に対し提言と要望を行いました。ここでは、その中から15項目について、報告いたします。

市民クラブ会派の立石泰広議員(左)と大庭通嘉議員(右)



市への提言・要望事項	市の対応状況
<p>市政全般</p> <p>①ウイズ&アフターコロナ対応「クラスター未然防止とワクチン接種による集団免疫の確立」</p> <p>②SDGs(持続可能な開発目標)精神に基づいた各種事業の推進</p>  <p>③2050年脱炭素社会及び、2013年比2030年46%減に向けた具体的事業促進</p> <p>④デジタル社会を見据えたICT(情報通信技術)の推進「マイナンバーカード普及、AI(人工知能)、RPA(ロボットによる工程の自動化)導入」</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、「抗原検査キット」「感染対策用資機材(消毒液等)」等を計画的に備蓄するとともに、接種を希望する市民への3回目の接種等を安全かつ円滑に進める。</p> <p>②本市は日本一健康文化都市として、第8回健康都市連合国際大会において、健康都市プログラムを通じたSDGsの取組に対し表彰を受けている。個別計画や各種事業の推進においてもSDGsの考え方を反映させるほか、17のゴールなどを表記することで取り組みの見える化にも努めていく。</p> <p>③令和4年2月締結した「ゼロカーボンシティの実現に向けた包括連携協定」に基づき、公共施設へ再生可能エネルギー由来の電力を導入し、PPA(電力販売契約)事業による太陽光発電設備の設置などに取り組む。アースキッズ事業や出前エコ教室など環境教育を拡充し、市民の行動変容を促す。</p> <p>④国が公表した自治体DX(デジタル変革)推進計画等も踏まえながら、電子申請等マイナンバーカードの利用を促進することとあわせて交付促進に努める。また、AI、RPAによる効率化事例を庁内に水平展開していくことで職員の業務負担軽減を図っていく。</p>
<p>子育て・教育</p> <p>①保育所及び放課後児童クラブ待機児童ゼロの実現(幼稚園の認定こども園化など)</p> 	<p>①保育所等の待機児童については、その解消に向け、引き続き公立幼稚園の認定こども園化により利用定員の拡大を図っていく。放課後児童クラブについては、支援員などの人材確保に努めるとともに、学校施設(特別教室など)を活用し、タイムシェアによる確保など、小学校と協議し、場所の確保に努める。</p>

市への提言・要望事項

市の対応状況

健康・医療・福祉・スポーツ

①がん撲滅に向けた取り組み推進
(がん対策推進条例の導入の検討)

①第3次静岡県がん対策推進計画に基づき、次のとおり取り組む。
①エビデンスに基づく対策型がん検診の実施に向け、現在の検診体制を見直すと共に、がん予防に関する知識の普及啓発や受診勧奨を今まで以上に積極的に行い、市民が検診を受けやすい体制を整える。
②精密検査の啓発及び受診勧奨を徹底し、がんの早期発見早期治療に努める。

②PFI事業(民間資金、経営能力活用事業)
導入後の市スポーツ推進計画
の再構築(新体育館1億円/年、
費用対効果の検証)



さわやかアリーナ

②さわやかアリーナ運営事業者の民間のノウハウを活かし、感染対策を講じた上でのスポーツ活動の推進、企業などによる施設活用、スポーツのみならず市民の憩いや交流の場の創出、スポーツによる地域活性化を重点施策に位置付け、取り組んでいる。実施にあたっては、運営事業者の実施事業とスポーツ推進計画の施策との連動や、市民の教室等への参加、施設の利用など、受益を受けているのかを検証していく。

都市・環境

①JR袋井駅南まちづくりの早期
推進

①袋井駅南地区の都市拠点としての機能強化に向けて、市域南東方面からのアクセス強化を図るため、袋井駅南循環線や(都)田端宝野線の整備を推進する。新幹線南側の土地利用については、治水対策と整合を図りながら土地所有者や地域との協議を行い、土地利用方針の策定を進めていく。

②ごみ減量化の推進(雑紙、草木
コンテナ設置などによる分別収
集の徹底)

②可燃ごみの削減・リサイクルを推進するため、新たに雑紙回収や草木回収コンテナの設置を開始するとともに、分別の徹底やごみ減量の取り組みの周知に努める。

産業・就労

①企業誘致の推進(小笠山工業団
地・土橋地区開発・第一三共跡
地の早期活用)



第一三共跡地

①小笠山工業団地については、南側A区画の令和4年8月の引き渡しに向け、引き続き事業を進めている。南側E区画及びB区画の一部についても、木質バイオマス発電所を計画するフォレストエナジー(株)と進出協定を締結し、令和6年前半の操業に向け、事業着手している。また、塚本建設が開発を行う北側区画については、同社とともに企業誘致を行っていく。
土橋工業用地開発事業は、事業を進めるにあたり、地域の抱える課題を整理し対応していく。第一三共跡地については、引き続き上地所有者であるヨシコン(株)と情報交換をしつつ、企業誘致を推進していく。

市への提言・要望事項	市の対応状況
<p>産業・就労</p> <p>②3DWO構想(3Days Worker's Officeの略。週3日又は短時間勤務による高齢者の新しい働き方)の反省に基づいた生涯現役促進地域連携事業及びシルバー人材センター事業推進</p>	<p>②多様な分野で高齢者の方が活躍できるよう、一つでも多くの分野の就業拡大を図るとともに、技術習得に向けた講習会を開催するなど、シルバー人材センターと連携して高齢者雇用の推進を図りたい。</p>
<p>防災・交通安全・防犯</p> <p>①総合的な治水対策の推進(村松・高南・川井・新池ほか)特に松橋川、蟹田川、三沢川の改修</p>  <p>大雨後の三沢川</p> <p>②防潮堤整備促進と防潮堤の公園等への活用・サンドバイパス事業の推進</p>	<p>①浸水被害が常襲的に発生している松橋川については、可能な限りスピードを上げて引き続き整備を進め、県が管理する蟹田川や三沢川の整備については、早期整備を要望していく。高南地区や村松・川井・新池地区などにおける治水対策についても、これらのハード対策とともに、あらゆる関係者が協働して治水対策を行う「流域治水」に取り組み、ハード・ソフト一体となった対策を行う。</p> <p>②防潮堤の整備については、整備完了の目途がついたことから、引き続き計画的な整備完了を目指して取り組んでいく。これまでワークショップなどを通じて寄せられた海岸利用者の声を踏まえつつ、だれもが、容易に、より近くで海を感じることができるよう環境基盤を先行して整備していく。サンドバイパス事業の推進については、県事業であるため、予定通り年間8万立方メートルの移動量を達成するよう県へ要望していく。</p>
<p>協働・地域・歴史・文化・国際交流</p> <p>①コミュニティセンター移行後の対応(全市コミセン管理の一元化「組織・会計等」)</p>  <p>浅羽東コミュニティセンター</p> <p>②地元要望対応の予算措置と道路・排水路事業推進(自治会提案は民力のバロメーター)</p>	<p>①管理の一元化は、特色ある地域づくり交付金の申請、報告様式の統一化など、できるところから進めている。組織・会計等の一元化は、会長や事務局と協議・調整、地域と合意形成を図りながら進めたい。</p> <p>②地元要望については、緊急性や安全性を重視し、引き続き対応していく。また生活道路の拡幅にあつては、要望のあった新規5路線を次年度新たに加え、合計14路線について推進していく</p>

令和3年度の定例会での質問一覧

■活動の概要

◇所属する市民クラブ会派の大庭通嘉・立石泰広両議員は、令和3年度に開催された4回の市議会定例会において、一般質問で10項目、会派代表質問で5項目、計15項目について、市に対し質問と提言を行いました。

市政全般

- ①新市長の政治姿勢について
- ②令和4年度の予算編成の基本方針について
- ③袋井市におけるデジタル化の推進について
- ④よりよい行政改革への提案について
- ⑤市職員が健康で働ける職場環境の整備について

子育て・教育

- ①子育てと仕事の両立支援について



健康・医療・福祉・スポーツ

- ①高齢者の介護予防と生活支援の推進について



高齢者の買い物支援(新堀)

都市・環境

- ①袋井市の温暖化対策について
- ②ごみ袋有料化の市民説明会の結果を受けて
- ③ごみ処理有料化の取り組みへの提案について
- ④可燃ごみ削減の取り組みについて
- ⑤道路の騒音・振動対策について



デジタル化(イメージ写真)



剪定枝のリサイクル(宇刈)

協働・地域・歴史・文化・国際交流

- ①自治会における課題について
- ②自治会への個人情報保護法の適用指導について
- ③宇刈里山公園の整備について



立石の市政に対する「一般質問①」

■質問の概要

- ◇子育てをしながら働く世代を支援するために、法律の改正により、事業所においては、仕事と家庭生活のバランスがとれた雇用環境を、整備するよう求められています。
- ◇こうした状況を踏まえ、市は市内の事業所に対しどう支援するのか、その方針を質問するとともに、掛川市などの先進自治体の事例を参考とするよう、提言しました。

① 子育てと仕事の両立支援

問 今年の4月から、改正育児介護・休業法が段階的に施行される。事業所としては、より一層、育児休業を取得しやすい雇用環境を整備していくことが求められている。こうした状況を踏まえ、袋井市として、市内の事業所に対し今後どのような支援を行っていくのか。

答 市では、第4次男女共同参画推進プランにおいて、市内事業所における男性の育児休業取得率を令和7年度までに13%とすることを成果目標として掲げており、その達成に向けては、市内事業所の理解と取組が不可欠である。令和4年度は、実際に事業所へ足を運び、意見交換をしていく中で、優良な事業所の取組事例を紹介するなど、男性の育児休業取得の促進及びワーク・ライフ・バランスの推進に向け、積極的に取り組んでいただくよう働きかけてまいりたい。

問 袋井市の来年度の意欲的な取組、訪問活動をされるということで期待をしているが、今少し物足りない気がする。ここで掛川市の事例を紹介させていただくが、掛川市の取組をぜひ参考にして、今後、袋井市の活動をどうやっていくか検討していただきたい。掛川市の場合は、希望する事業所に対しては無料で専門家を派遣して、子育てと仕事の両立しやすい職場づくりに向けての助言をその専門家が行う。また、市内事業所に勤務する従業員を対象に、両立支援に関わる電話相談を受け付けている。さらに、子育てと仕事の両立環境整備に積極



的に取り組む事業所を対象にして、子育てに優しい事業所として認定を行う事業を行っている。こういった認定事業所に対しては、認定証が交付され、市のホームページや広報紙で事業所のPRをする、また、専門家の無料の派遣が受けられる、先進事業所の講演会への参加、こういった等々のインセンティブが得られる、こういった仕組みになっている。

答 まずは、来年度は企業訪問などで、国、県の認証制度を活用していただけるようPRに努めてまいりたい。立石議員から御提案をいただきました浜松市や掛川市の取組についても、現状の取組状況を確認させていただきまして、議員がおっしゃられるように、市内企業のワーク・ライフ・バランスの推進というものが需要でございますので、それらの状況を踏まえて今後も研究させていただきたい。

●本レポートに掲載の「一般質問」は一部を抜粋したものです。掲載のQRコードで、または直接市ホームページにアクセスしていただければ、全体のビデオ録画をご視聴いただけます。



立石の市政に対する「一般質問②」

■質問の概要

- ◇可燃ごみの減量活動では、ごみの種類ごとにしっかりした分別収集策を講じること、早期の段階で、市民と事業者に対し、丁寧に取り組みの説明を行うことが必要です。
- ◇このことを踏まえ、草木(剪定枝)と容器・包装プラスチックの分別収集方法、家具等の粗大ごみのリユース(再利用)方法について提言を行いました。

② 可燃ごみ減量の取り組み

問 草木は、令和6年度の削減目標は804トンで30%の削減となっている。自治会単位のコンテナ回収と宇刈にある民間施設、また、中遠クリーンセンターへの直接搬入を併用して100%を目指してリサイクルすべきではないか。

答 森町や市北部の皆さんは、宇刈の民間業者の処理施設に直接持ち込んでいただくことを願います。市南部の方が中遠クリーンセンターに持ち込んでいただいた場合は、施設内に一旦ストックし、宇刈の民間業者に運搬してリサイクルを行う。さらに、令和4年度からは、各自治会に草木の回収コンテナを配置することにより、さらなるリサイクルを行う予定であり、早期に100%リサイクルを実現できるように目指してまいります。



民間のリサイクルステーション

問 容器包装プラスチックの令和6年度の削減目標は357トンで20%の削減となっている。月2回の回収では少ないという市民の不満に添えているとは言えない。週1回の回収に改めていただき、全量をリサイクルすべき。

答 仕事等の都合により出せない方のために、豊沢地区の容器包装資源化センターで平

日と土日の午前、また、中遠クリーンセンターの多目的広場東側駐車場では毎週日曜日の午前9時から11時に回収を行っております。

問 古布は、令和6年度の削減目標は127トンで20%の削減。かばん、靴などは15%の削減となっている。掛川市では、古布、かばん、靴は回収ボックスを設置して、使えるものは全量リユースをしている。掛川市を参考にすべきではないか。

答 古布につきましては、現在、下山梨と泉町の民間の回収ステーションと市役所の3カ所で回収が行われているが、浅羽地域には回収場所がないので、回収場所を1カ所設ける予定。かばん、靴のリユースにつきましては、掛川市に回収ボックスを設置している森町の民間業者と調整を行い、リユースを進めてまいります。

問 可燃ごみの減量の取組として、掛川市は平成18年度から3年間で733回の市民説明会、413回の事業者説明会、1433箇所の収集場所での分別指導を行っている。袋井市は、市民、事業者の皆さんへの説明、指導をどう進めていくのか。

答 本市においても、できる限り自治会等を訪問し、説明動画を見ていただくなど、分かりやすく、きめ細やかな分別指導を行っていく。また、各公会堂やコミュニティセンターで行われている健康体操教室や講座など市民の集まる機会を捉え、1人でも多くの方にごみ減量の取組を理解していただけるよう、丁寧に説明していく。さらに、各地区のまちづくり協議会や「市民環境ネットふくろい」などの市民団体、ごみの減量活動に積極的に取り組んでいる市民の方々にも啓発活動に御協力をいただくなど、市民運動につなげてまいります。



立石の市政に対する「一般質問③」

■質問の概要

◇袋井市の行政改革は、3つの行政運営(市民とともに高め合う、自主性・自立性が高い、コストと成果を重視する)を基本方針として、取り組みがなされています。

*行政改革⇒行政機関の組織や運営を内外の変化に適應させること。

◇しかしながら、私の実体験において、市組織の部門間の連携不足や、職員の人材育成の不足による、事務の非効率事例が散見されたため、市に対し改善を提案しました。

③ よりよい行政改革への提案

問 市民や事業者と協働して進めていく事業で、方針や目標、ロードマップといった情報が十分に提供されていなかったことを経験している。組織と組織は方針や目標がないとつながらないし、当然成果も上がってこない。目標、方針、手続、ルールを周知することの必要性、職場を目標達成に向けて方向づけることを管理層の職員にどう教えているのか。

答 課長職に対する階層別研修では、目標管理をテーマとして、職員が納得できるような指示の出し方や、目標管理していく上で、所属の職員個々のレベルに応じた到達期間と到達目標を主体的に設定させるなど、実践的なプログラムの研修を取り入れている。自治体の業務は幅広い分野を担っており、法令や各制度に基づき、それぞれ仕組みづけられており、各制度の趣旨やルールの共有化を図り、市民のための行政運営に努めてまいりたい。

問 行政が作成する資料で記載の不備が複数あるものが配布されていた。業務関連知識の不足によるものである。職務要件書で必要な知識、技能、態度を洗い出し、職場内の研修計画を作成し、計画的に人材育成するのが一般的だが、どのような仕組みになっているのか。

答 職員の人材育成については、袋井市職員人材育成基本方針に基づき、基礎的能力と業務の専門性の高い職員、高い志と自学の意識を持ち、新たなものに挑戦する勇気を持った職員の人材育成を目指して、階層別の集合研修や派遣研修、スマート自治体庁内変革プロジェクトなどを実施している。これにより、管理、監督者は、部下の能力を最大限に引き出し、質の高いOJTを行うことで、個々の職員が若い時期から企画力やマネジメント力を磨き、将来を見据えた人材育成に努めている。

問 目的と進め方が似ていて、行政担当部門が異なる類似事業がある。似かよった会議で、違う日に同じ対象が集められるので、コミュニティセンターの館長から一緒にやれないかと小言を聞いた経験がある。業務の棚卸しを行って、目的、やり方が同じであれば、市民の利益を重視した効率的な進め方に改めることが必要ではないか。

答 市で行う各種イベント等の開催は、複数の所属が関連する場合が多く、そのような場合には、各所属間で連携、調整し、企画や運営などを行っている。また、外郭団体等に参加を要請する場合は、その事業の趣旨に基づき、個々の団体等へ依頼しているが、中には、目的と手法が類似しているため、対象者が重複する事例があるとの御指摘もある。今後は、各所属間、部門間の情報交換をより密にし、協力団体の実情も把握した上で、引き続き効率的な運営に努めてまいりたい。

答 市で行う各種イベント等の開催は、複数の所属が関連する場合が多く、そのような場合には、各所属間で連携、調整し、企画や運営などを行っている。また、外郭団体等に参加を要請する場合は、その事業の趣旨に基づき、個々の団体等へ依頼しているが、中には、目的と手法が類似しているため、対象者が重複する事例があるとの御指摘もある。今後は、各所属間、部門間の情報交換をより密にし、協力団体の実情も把握した上で、引き続き効率的な運営に努めてまいりたい。



市職員の人材育成
(イメージ写真)

袋井高校の生徒と市議が意見交換する。

◇高校生に市議会に関心を持ってもらう、政治・行政・選挙に対する理解を深めてもらうことを目的に、2月17日、袋井高校の生徒と市議会議員の意見交換会「市議会議員と話そう」が開催されました。

2年生が、環境・産業経済・防災などのテーマで市議に発表

●開催日時・参加者

開催日時	生徒	議員
2月17日 15:15～16:30	266名	20名

●実施方法

- ①テーマ別に9つの教室に分かれる
 - 環境、教育・国際、医療、交通、地域行政
産業経済、防災、人口・福祉、その他
- ②担当市議の講話
 - 市議会、若者の投票率など
- ③各グループの発表
 - 1教室7～8グループ
 - 「地域の課題とそれに対する提言」
- ④担当市議の講評



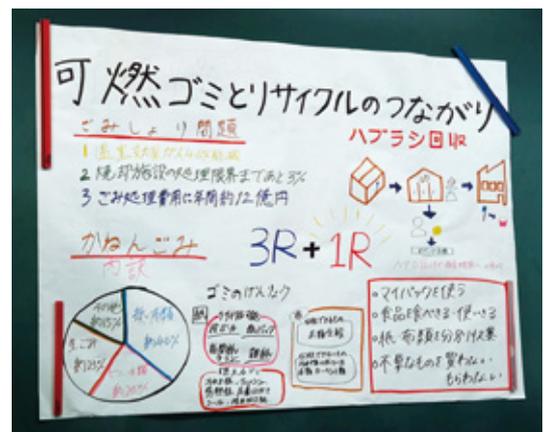
市議が生徒の発表に対し講評を行う

●アンケート結果

- 市議会の活動状況 ⇒理解できた 94%
- 議会、議員への関心 ⇒高まった 76%
- 議員の講評 ⇒参考になった 94%

〈立石の感想〉

各グループが事前に市役所を訪問するなどして、地域課題とその対策の方針を情報収集していたので、どの発表も説得力がありました。



「環境」がテーマのグループの発表事例

■ 皆様のご意見をお寄せください ■

立石やすひろ事務所

袋井市新堀112
TEL 090-6766-6071 FAX 0538-86-3728
E-mail: info@tateisi-sg.com



立石のホームページ

<https://www.tateisi-sg.com>



■「立石やすひろの議会レポート」は自費によるもので、公費(政務活動費)は使っていません。■